

市民団体による海岸環境保全

ふるさとの青い海を次世代に残す会「蒼い海」 代表 鶴城 雪子

はじめに

今から十数年前の留萌の海岸は、漂着ゴミや海水浴客が捨てるゴミ、家庭から廃棄されるゴミなどで荒れ放題となっていました。

ふるさとの海は次世代を担う子どもたちにとって貴重な財産であり、このまま何もしなければ子どもたちにきれいな海を残す事が出来ないと考え、海岸の環境を取り戻すことを目的として平成15年に6名の仲間ですスタートしました。

はじめは数名での清掃活動でしたが、海辺を散歩している方の参加や、新聞・広報誌などで活動を紹介した事で参加者が年々増え、現在では2歳の子どもから70歳代の元気な高齢者まで毎回多くの市民が参加しています。



海岸清掃終了後の記念写真（今年6月）

現在、蒼い海では海岸の環境保全のために「活動の3本柱」を設けて活動を行なっています。

1. 海岸の清掃活動（ビーチクリーン）

「留萌の青い海を次世代に残す」をモットーに、4月から9月までの6ヶ月間に渡り、定期的にゴールデンビーチ・浜中海浜公園・黄金岬など広範囲に及ぶ海岸の清掃を行っています。



海岸の清掃活動の様子

4月5月6月9月は隔週の土曜日、7月8月は毎週土曜日の朝に1時間程度の清掃活動を行ない、年間20回程度の活動でこれまでに集めたゴミの総重

量は100トンにも及びます。

平成22年7月に開催した「蒼い海100回記念ビーチクリーン」の際には、留萌管内市町村に声を掛け、5市町村同時に約130名の参加者で一斉に海岸の清掃を行ない、その後も毎年「管内一斉清掃」を継続しています。

又、留萌振興局の協力で海岸に「ポイ捨て禁止」の看板や「海をきれいに」の啓発のぼりを立てたり、観光協会へ要望して、ゴミステーションや炭捨て場が設置される運びとなりました。

これらの様々な取り組みにより、海岸の環境を守る整備はかなり前進したと感じています。

しかし、海の砂に直接穴を掘り網を渡し、肉などを焼いた後そのまま放置する「直火炊き」の行為が未だに絶えず、この非常識な行為により裸足で遊ぶ子どもが火の残った炭を踏んで火傷をしたり、割れたビンのかけらで裂傷を負うなど救急車が出動する事故が毎年起きています。



非常に危険な「直火炊き」の跡

このような危険行為である「直火炊き」を禁止する為には海岸の使用ルールを徹底させる事が重要ですが、一方で行政による海水浴場条例やポイ捨て禁止条例を制定するなどの罰則を設けた対策が不可欠であると考えています。

これらの条例は全国では多くの自治体でマナー向上のために制定されていますが、残念ながらわがまちに於いては海水浴客の減少を招くとして議論が進んでいないのが現状です。

2. 海岸の緑化活動

海岸に続く道路の植樹帯が雑草だらけになっていたため、留萌市から植樹帯を借り受け海岸の緑化活動に取り組み、今年で4年目となります。

始めの年は試験的に数種類の苗を植えてみまし

たが、直接あたる日差しや潮風が想像以上に強く、ほとんどの苗が枯れてしまいました。

2年目にはその反省も踏まえて、海沿いにも適したとされる黄花コスモスの種を譲り受け、土壌造りから黄花コスモスの植栽に取り掛かりました。

海岸清掃と併せて毎週雑草取りなどの作業を続け、8月上旬には強い潮風にも負けないオレンジ色の黄花コスモスを咲かせる事に成功し、雑草だらけの海岸線が600mにも渡る「キバナコスモスロード」として生まれ変わりました。

満開の時期には、観光客が寒別岳連邦を背景にして、記念写真を撮っている姿が見受けられます。



満開の黄花コスモスロード

3. 環境教育への支援活動

子どもたちに「海を汚さない大人になって欲しい」と考え、小学校の総合的学習の時間に於いてボランティア活動についての授業を行い、その後実際に海に行き海岸清掃を体験させる環境教育活動を行なっています。

又、保育園にも呼びかけ、年長児童と一緒に清掃活動も行いましたが、ゴミが散乱している海岸を見た園児は、「どうしてゴミを海に捨てて帰るの?」と不思議がり、この年代からの適切な環境教育が必要だと感じています。



環境教育と保育園児の清掃体験

中学生に関しては、「ボランティア活動と海の現状について」という題で増毛中学校全校生徒の前で講演をする機会を頂きました。

その後、新聞部の生徒が「蒼い海」の活動取材した壁新聞を作成してコンクールに出品してくれました。

更には、社会に出る前の高校生にも海岸清掃を

是非体験してもらいたいと考え、留萌高校の校長に「環境教育として捉えた、海岸清掃を高校生に体験させたい!」と熱く語ったところ、気骨のある校長は「では全校生徒でやりましょう!」と英断をして頂きました。

しかし、500名にも及ぶ全校生徒が一斉に清掃活動を行なう為には、保護者の理解を得る事や交通手段や移動時の安全の確保、又、費用面に関して解決しなければ成らない問題が数多くあり、校長や担当の先生と熟慮を重ね、2011年6月留萌高校全校生徒による海岸清掃が実現しました。

私は、この時の全校生徒が一斉に、海岸を清掃している光景を今でも忘れる事が出来ません。



気骨のある校長と女子高校生との1コマ

留萌高校の全校生徒による海岸清掃は、今年で4年目を迎えましたが、気骨のある校長やその時の担当の先生が代わった現在においても、学校行事として毎年受け継がれています。



全校生徒による海岸清掃で集めたゴミの一部

さいごに

当初は「きれいな海を取り戻したい」という気持ちだけで活動していましたが、現在では、活動の幅が大きく広がるようになりました。

中でも、特に力を注いできた環境教育への支援活動は、園児から高校生に至るまで取り組む事が出来ました。

今後には、海岸線を持つ留萌管内の市町村や道庁とも連携を深めながら、未来に続く子どもたちと共に環境保全活動に取り組んでいきたいと考えています。